

1 研究の仮説

思考方法と「言葉選びシート」を活用し、多くの詩に用いられている言葉やSNSをはじめとする身の回りの言葉进行分析する活動を通じて自分自身の表現を吟味する場を設定することで、心を温め、心に残り、目にとまる言葉とは何かについて自分の考えをもち、言葉選びにこだわる生徒を育成することができるのではないかと仮説を立てた。

2 単元 「“バズる”と向き合い、言葉を紡ぐ。」

3 指導観

- 一つの話題や単語が一举に注目を集め、爆発的に多くの人に取り上げられる「バズる」という現象が生まれた。いかに価値ある情報を有していても、膨大な情報の中で埋没することなく、注目される言葉を選ぶことができなければ、その価値ある情報が誰かに届けられることはない。

本単元は、複数の詩から印象的な言葉やSNSで「バズった」言葉を分類し、それらの言葉からよりよい言葉選びの定義を見いだして創作詩を修正する活動を通して、「心を温め、心に残り、目にとまる言葉」とは何かを見極め、目的に応じた最適な言葉を選ぶことができるようになることをねらいとする。学習内容としては、随筆の特徴、多くの人々の注目を集める言葉選びの分類、多くの人々の心に残る言葉選びの視点などがある。このような学習内容から、生徒は「バズる」という現象の中にも様々な注目の集め方があることを認識した上で、これからの時代で誰かの心を温め、心に残り、目にとまる言葉とは何かについて自分の考えをもち、そのような言葉を選ぶための視点を獲得することができる。したがって、本単元を学習することは、膨大な情報の中で埋没することなく、情報を届けるための言葉選びの視点を獲得できるという点において、意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、「あらゆる側面から『よりよい言葉選び』の在り方を見極め、心を温め、心に残り、目にとまる言葉を紡いで詩を創作しなさい。」という学習課題を提示し、よりよい言葉選びの在り方を模索させたい。そのためにまず、学習課題を把握し、創作詩を複数書かせる。ここでは、想いを起点として詩を創作させるために、詩を通じて何を語りたかについて言語化できる学習シートを提示する。次に、既習である複数の文学作品の中から、「印象的な言葉」を列挙させる。ここでは、詩の価値を高める言葉選びの工夫に着目させるために、思考方法【視点換え】を用いて言葉を吟味する場を設ける。さらに、前時までにまとめた「よりよい言葉選びとは」の定義に基づいて、自分が下書きを進めている詩に用いている言葉について再考するよう促す。ここでは、自身が詩を通じて表現したい思いに沿って言葉を吟味させるために、類語辞典を提示し、複数の単語を比較検討するよう促す。最後に、創作詩を完成させ、「よりよい言葉選び」について自身の考えを明らかにさせる。ここでは、「よりよい言葉選びの在り方」について考えを客観的に記述させるために、級友の創作詩と「言葉選びシート」と併せて交流する場を設ける。

4 目標

- 語感を磨き、語彙を豊かにして、詩で表現したい思いに沿った言葉を選ぶことができる。
- 書き手としての意図や伝えたい思いを明確にして題材を決定し、表現を工夫して随筆を書くことができる。
- 目的や相手に応じた最適な言葉について吟味し、心を温め、心に残り、目にとまる言葉で書こうとする。

5 計 画 (12 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の観点
一	2	<p>1 学習課題を把握し、創作詩を複数書いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の特徴 	<p>○ 想いを起点として詩を創作させるために、詩を通じて何を語りたかについて言語化できる学習シートを提示する。</p>	<p>態：学習課題達成のためにテーマを設定し、必要な学習活動について見通しをもっている。</p>
		<p>学習課題 「よりよい言葉選び」の在り方を見極め、附中一学年のスローガンである「心躍る」をテーマに、詩を創作しなさい。</p>		
二	5	<p>2 既習である複数の文学作品の中から、「印象的な言葉」を列挙する。</p> <p>(1) ～ (2) 『朝のリレー』と『それだけでいい』から、作品としての価値を高めている言葉を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の価値を高める言葉選びの工夫 <p>(3) ～ (4) 小学生の頃に学習する複数の詩や文学作品から、作品としての価値を高めている言葉を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に残る言葉選びの定義 	<p>○ 詩の価値を高める言葉選びの工夫に着目させるために、思考方法【視点変え】を用いて言葉を吟味する場を設ける。</p> <p>○ 選んだ言葉(出典を含む)と理由を明記するシートを提示し、活用を促す。</p>	<p>知：語彙を豊かにして、主題に関わる言葉選びの視点に気づき、自分の考えをもっている。</p>
	本時	<p>(5) SNSで「バズった」投稿を分析し、複数の「印象的な言葉」を整理し、よりよい言葉選びの定義を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目にとまる言葉選びの工夫 	<p>○ 複数の投稿を特性に応じて整理させるために、「心を温める言葉」「心に残る言葉」「目にとまる言葉」という三つの枠で構成される「言葉選びシート」を提示する。</p>	
三	3	<p>3 前時までにまとめた「よりよい言葉選びとは」の定義に基づいて、自分が下書きを進めている詩に用いている言葉について再考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩を通じて表現した思い沿った言葉選びの視点 	<p>○ 自身が詩を通じて表現したい思いに沿って言葉を吟味させるために、類語辞典を提示し、複数の単語を比較検討するよう促す。</p>	<p>思：書き手としての意図や伝えたい思いを明確にして、テーマに沿った言葉を選び、詩を書いている。</p>
四	2	<p>4 創作詩を完成させ、「よりよい言葉選び」について自身の考えを明らかにする。</p> <p>(1) 創作詩を完成させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った言葉選びの在り方 <p>(2) 「よりよい言葉選びの在り方」について自分の考えを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉への客観的な視点 	<p>○ 「よりよい言葉選びの在り方」について自分の考えを客観的に記述させるために、級友の創作詩を、級友の「言葉選びシート」と併せて交流する場を設ける。</p>	<p>態：級友の工夫から自身の文章を見直し、多くの人の心に残る言葉を選んで書こうとしている。</p>

6 本 時 令和5年11月10日（金） 第4校時 計画 第二次の5 1年2組教室にて

(1) 主 眼

○ 「言葉選びシート」に書きためた様々な言葉について、目にとまる言葉という視点を加えて分析する活動を通して、よりよい言葉選びの在り方について自分の考えをもつことができる。

(2) 準 備

- ①ご当地キャラクターのイラスト ②言葉の力で「バズった」複数の投稿
③言葉選びシート（クラウド上） ④単元学習シート（クラウド上） ⑤創作中の詩の下書き

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	主な手だて（○）と評価（◇）	形態	配時
（前時まで） ・ 既習の詩から「印象的な言葉」を列挙し、その理由もあわせて書いたものを、「心を温める」「心に残る」という二つのベン図で整理する。		○ 自身の創作詩における言葉選びを客観的に見直させるために、学習課題に応じて既習の様々な詩から「印象的な言葉選びがされている部分はどこか」と問う。		
1 「バズった」投稿を分析する必要性とめあてを把握する。 ・ 情報が目にとまるよう工夫する必要性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">めあて 目にとまる言葉とは何かという視点を含めて、よりよい言葉選びとは何か探ろう。</div>	①	○ 「目にとまる言葉」の特徴を捉える必要性を実感させるために、注目を浴びたご当地キャラクターを例示し、生徒が作成している詩が誰かの目にとまるものになっているかを問う。	一斉	5
2 教師が提示した複数の「バズった」投稿について、どのような工夫が凝らされているか吟味する。 ・ 目にとまる言葉選びの工夫	② ③	○ 複数の投稿を特性に応じて整理させるために、前時で提示したベン図に「目にとまる言葉」という枠を追加した「言葉選びシート」を提示し、「(教師が提示した)投稿のうち、もっとも多くの人の目にとまる投稿はどれか」と問い、その理由も併せて記述するよう促す。	個 ↓ ペア (任意)	20
3 「よりよい言葉選びの在り方」の定義について、自分の考えを書く。 ・ 心を温め、心に残り、目にとまる言葉を選ぶための視点		○ 心を温め、心に残り、目にとまる言葉を選ぶための視点を獲得させるために、「言葉選びシート」の三つの枠が重なり合う部分が「作成者(生徒)にとってよりよい言葉選びの在り方が現れた部分である」と定義し、その特徴を箇条書きで整理するよう促す。	個 ↓ 全体	15
4 自身が下書きを進めている作品を修正するための見直しをもち、本時の学習を振り返る。 ・ 自身の言語感覚に沿った修正の視点	④ ⑤	○ 自身が考える言葉選びの在り方を具体化させるために、活動3で書きだした「よりよい言葉選びの在り方」に沿って、自身の作品に修正できる箇所がないか問う。 ◇ 心を温め、心に残り、目にとまる言葉とは何かについて、「言葉選びシート」の真ん中に集まった言葉を参考にして、自分の考えを書くことができたか。 <「言葉選びシート」, 学習カード分析>	個	10

1 研究の仮説

単元の蓄積学習シートを活用し、身の回りに溢れるキャッチコピーのモデル文から、作者の意図する表現や構成の工夫を捉え、四つの対話活動である自己・他者・教材・生成AI (ChatGPT) との対話を通して、創作したキャッチコピーを見直すことで、言葉を吟味し、言葉とは何かを自覚的に意識して捉え、言葉選びにこだわる生徒を育成することができるのではないかと。

2 単元 「言葉を吟味し附属福岡を紹介するキャッチコピーをつくろう」

～四つの対話と振り返りを通して～

3 指導観

○ 人工知能 (AI) の飛躍的な進歩により人が言葉を紡ぐ意義を見直す変革期を迎えている。膨大な文字情報が溢れ社会の変化が著しい世の中で人がもちうる語彙力や言葉を表出する速さだけで、また AI がもつ豊富な知識や言葉を紡ぎだす速さだけでこれからの新しい価値や理想とする未来を創造していけるのだろうか。

本単元は、「附属福岡中学校のブランドをイメージしたキャッチコピーを作成する」活動を通して、表現や構成の工夫、相手意識や目的意識の必要性を見出し、自分の表現に生かすことをねらいとする。学習内容としては、キャッチコピーの魅力、表現の効果と構成の工夫、洗練された言葉の姿、相手・目的意識の必要性、生成AI の仕組み、利便性・リスクの留意点、ファクトチェックの方法、AI との対話スキルの在り方、言葉を吟味する意義、軌跡の活用の在り方、鑑賞の在り方などがある。このような学習内容から、生徒は読者の目を引く言葉選びの視点を獲得できる。したがって、モデル文となる、キャッチコピーに表れている表現の工夫や効果を見出したり、疑問を抱いたりするなかでキャッチコピーに対する考えを生徒自らがもち、「自分の考えを言葉として表現することの意義を改めて実感できる」という点で大変意義深い単元である。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

○ 本単元の指導にあたっては、「附属福岡中学校の魅力や特色を伝え、人の心を動かすキャッチコピーを作成しなさい。」という学習課題を設定し、表現や構成の工夫、相手や目的意識の必要性を見出し、表現に生かし、読者の目を引くようなキャッチコピーの作成を仕組んでいく。そのためにまず、学習課題を示し、見通しを立てる場を設ける。ここでは、学習課題の達成のために、目標に向かう計画を立てさせる。次に、相手や目的を捉え、対象やテーマを明確にさせる。ここでは、表現と構成の工夫を見出させるために、街に溢れるキャッチコピーをモデル文として提示し、それらを比較する場を設ける。また、言葉には相手・目的意識が必要であることを実感させるために、対象者の情報を事前にリサーチするよう促す。さらに、キャッチコピーの推敲に取り組ませる。ここでは、キャッチコピーに検討の余地があるかを認識させるために生成AI (ChatGPT) との対話を通して今一度、作品を多様な面から見つめる場を設定する。また、創作物の推敲に取り組ませるために、学習の軌跡を見直すよう促す。最後に、キャッチコピーの鑑賞会を行い級友との交流を通して活動を振り返らせる。ここでは、考えを個に返すために単元の振り返りシートを用いる。

4 目標

- 言葉に関心をもち語感を磨き語彙を豊かにして、自分の思いや考えを適切に表現するために必要な言葉を選ぶことができる。
- 伝えたい目的や意図を明確にして表現する事柄を決定し、表現や構成を工夫してキャッチコピーを創作することができる。
- 課題を達成していくための方略を見出し、計画を立て主体的に学習活動に取り組もうとしている。

5 計画 (9時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価規準
一	1	1 学習課題を把握し、キャッチコピーの下書きをする。 ・キャッチコピーの魅力	○ 学習課題に沿って学習を進める意義を実感させるために、学習課題を提示し、学習の流れを捉える場を設ける。	態：学習課題を通してどのように教材と関わり、課題を達成していくか計画を立てようとしている。
		<p>学習課題</p> <p>令和7年度の入試説明会に向けて附属福岡中学校を宣伝するための、附属福岡中学校の魅力や特色が伝わる、人の心を動かすキャッチコピーを作成しなさい。</p>		
二	3	2 相手や目的を捉え、対象やテーマを明確にする。 (1)～(2) モデル文の比較から表現の効果と構成の工夫を見出す。 ・表現の効果と構成の工夫 ・洗練された言葉の姿 (3) 相手意識や目的意識の必要性を見出す。 ・相手・目的意識の必要性	○ キャッチコピーの表現の効果や構成の工夫に気付かせるために、街に溢れるキャッチコピーをモデル文として提示し、比較する場を設ける。 ○ 言葉には相手・目的が必要であることを実感させるために、対象となる相手の情報をリサーチさせる。	知：モデル文の比較を通して、表現の効果や構成の工夫を捉えている。
三	4	3 創作したキャッチコピーを見直し、完成させる。 (1) 創作したキャッチコピーの推敲に取り組む。 ・言葉の仕組み	○ 言葉の選び方に拘ったキャッチコピーを作成させるために、蓄積した学習の軌跡を見返すよう促し、一度創作したキャッチコピーを検討するよう言及する。	思：キャッチコピーを見直し推敲することを通して、目的や意図に沿った言葉を見出している。
		(2) 生成AI自体について学ぶ。 ・生成AIの仕組み ・利便性・リスクの留意点 ・ファクトチェックの方法	○ 生成AIに対する基礎的・基本的な事項について共通認識を図るために、生成AI自体について学習する場を設ける。	
		本時 (3) 生成AI (ChatGPT) との対話活動を通してキャッチコピーを見直す。 ・AI との対話スキルの在り方 ・言葉を吟味する意義	○ 創作したキャッチコピーに検討の余地があるかを認識させるために、生成AI (ChatGPT) との対話を通して今一度、作品を多様な面から見つめる場を設定する。	
	(4) キャッチコピーを再度見直し、完成させる。 ・軌跡の活用の在り方	○ 目的や意図に沿った言葉選びをさせるために、これまでの学習の軌跡を想起させ、キャッチコピーを再構築するよう促す。		
四	1	4 級友の作品を鑑賞する。 ・鑑賞の視点	○ 学習の軌跡を振り返らせ、学習前との比較を促し、学習プリントに記録するよう促す。	態：これまでの学習の軌跡と自分の作品を見直し、目的や意図に沿った言葉を選んで書こうとしている。

6 本 時 令和5年11月10日（金） 第3校時 計画 第三次の4 3年1組教室にて

(1) 主 眼

- 創作したキャッチコピーについて、生成 AI（ChatGPT）との対話活動を通して、対話の過程を振り返り、表現したい事柄にあてはまる言葉を見出すことができる。

(2) 準 備

- ①学習プリント ②生成 AI（ChatGPT） ③単元学習振り返りシート

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	主な手だて（○）と評価（◇）	形態	配時
<p>1 本時のめあてを確認する。 ・語感を磨く意義</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 創作したキャッチコピーを、対話を通して、多様な視点から見つめ表現したい言葉を見出そう。</p> </div>	①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもたせるために、めあてを提示する。 ○ 生成 AI との対話活動の必然性を引き出させるために、日常の学習における対話を問い、前時の学習の生徒の一部を提示する。 	一斉 ↓ 個	10
<p>2 生成 AI（ChatGPT）との対話をもとに、自身が作成したキャッチコピーを見直す。 ・AI との対話スキルの在り方</p>	②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創作したキャッチコピーを振り返らせるために、生成 AI（ChatGPT）に創作したキャッチコピーを評価させ、対話をもとに自分の作品を見直すよう促す。 ○ 評価だけでなく、言葉選びや構成などの工夫にも気づかせるために、生成 AI（ChatGPT）との対話の仕方についても言及する。 	一斉 ↓ 個	10
<p>3 級友との意見交流を通して、自身が作成したキャッチコピーを見直す。 ・交流活動の在り方 ・プロンプトの工夫</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な言葉選びや構成の工夫があることに気付かせるために、言葉選びや構成の工夫について生成 AI（ChatGPT）との対話したことをもとに級友と意見交流する場を設ける。 ○ 生成 AI（ChatGPT）との対話はプロンプトの工夫によって対話の内容が変化することに気付かせるために、級友の生成 AI と自分の対話を比較する場を設ける。 	個 ↓ 小集団 ↓ 一斉	20
<p>4 交流活動の内容をもとに学習を振り返り、再度自分のキャッチコピーの作成を行う。 ・言葉を吟味する意義</p>	③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習形態を生徒に選択させるために、生成 AI（ChatGPT）との対話や対話したことの振り返りを自身でしたい生徒についてはそのまま個人の時間に使っていいことを言及する。 ○ 自らの考えの変容を自覚させるために、対話をもとに多様な考えに触れ考えや根拠が強化された箇所について振り返るよう促す。 ◇ 創作したキャッチコピーについて、生成 AI（ChatGPT）との対話活動を通して、多様な視点から見つめ、表現したい事柄にあてはまる言葉を見出すことができたか。 ＜学習プリント分析、様相観察＞ 	一斉 ↓ 個	10